

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 事後評価シート

平成 27 年 3 月 20 日

計画の名称	25 活力ある都市拠点の形成を牽引する快適・便利なみちづくり		
計画の期間	平成 23 年度 ～ 平成 26 年度（4 年間）	交付対象	安城市
計画の目標			

鉄道駅周辺等の都市機能が集積したエリアなどにおける道路整備等と併せて、災害に強く、地域住民が安全で安心して生活でき、賑わいと活力ある都市空間を創出し、快適・便利なみちづくりを推進する

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の道路整備に対する満足度（％）：市民アンケートのうち「道路の整備」に関して“満足である”とした割合を52.8％（H23）から57.0％（H26）に増加 ・安全・安心生活エリアカバー率（％）：拠点的市街地における市街地整備事業施行面積のうち、災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリアの割合を73.3％（H23）から83.5％（H26）に増加 		
----------------	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値	最終目標値 (H26末)							
① ■市民アンケートのうち「道路の整備」に関して“満足である”とした割合（％） (道路整備満足度) = (無回答を除く「非常に満足」+「満足」+「やや満足」) / (回答数) (%)	52.8%	-	57.0%							
② ■災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリア（整備された幅員6m以上の道路の道路端から一定距離 (概ね幹線道路：50m、区画道路等：30m)のエリア)を調査し、拠点的市街地における市街地整備事業施行面積の合計に占める割合（％） (安全・安心生活エリアカバー率) = (安全・安心生活エリア) / (市街地整備事業施行面積) (%)	73.3%	-	83.5%							
全体事業費	合計 (A+B+C)	3,425.087	A	3,425.087	B	-	C	-	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価（中間評価 フォローアップ報告）

○事後評価（中間評価 フォローアップ報告）の実施体制、実施時期

事後評価（中間評価 フォローアップ報告）の実施体制	事後評価（中間評価 フォローアップ報告）
低炭素まちづくり協議会において実施 H26.11：第一回低炭素まちづくり協議会において事後評価原案の審議 H26.12：事後評価原案の公表 H27.1：第二回低炭素まちづくり協議会において事後評価の審議 H27.3：事後評価の公表	H26：事後評価を実施、H27以降、確定値によりフォローアップ評価を実施 公表の方法 安城市HPにより公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																
A 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考
											H23	H24	H25	H26		
25-A1-1	改築	一般	安城市	直接	安城市	区画	改築	安城桜井駅周辺地区((都)安城蒲郡線外)	区画整理 A=93.8ha	安城市					1,345.799	清算事業費
25-A1-2	改築	一般	安城市	直接	安城市	区画	改築	南明治第一地区((都)安城碧南線外)	区画整理 A=16.7ha	安城市					807.580	清算事業費
25-A1-3	改築	一般	安城市	直接	安城市	区画	改築	南明治第二地区((都)安城幸田線外)	区画整理 A=3.3ha	安城市					1,271.708	清算事業費
											合計				3,425.087	

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 事後評価シート

平成 27 年 3 月 20 日

計画の名称	25 活力ある都市拠点の形成を牽引する快適・便利のみちづくり	交付対象	安城市
計画の期間	平成 23 年度 ～ 平成 26 年度（4 年間）		
計画の目標			

鉄道駅周辺等の都市機能が集積したエリアなどにおける道路整備等と併せて、災害に強く、地域住民が安全で安心して生活でき、賑わいと活力ある都市空間を創出し、快適・便利のみちづくりを推進する。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況

【都市機能が集積したエリアなどにおける道路整備】都市・地域拠点における都市計画道路整備が着実に進捗していることにより、商業・業務機能等の都市機能活用に係る快適性及び利便性が向上し、道路整備満足度が上昇したと考える。
【災害に強く、地域住民が安全で安心して生活でき、賑わいと活力ある都市空間の創出】都市・地域拠点における土地区画整理事業内の都市計画道路整備が着実に進捗していることにより、災害に対する都市機能及びまちなか居住機能集積区域の安全性が確保され、安全・安心生活エリアが上昇したと考える。

II 定量的指標の達成状況

指標①（道路整備満足度）	最終目標値	57.0%	目標値と実績値に差が出た要因	・都市拠点であるJR安城地域において、（都）安城碧南線、（都）安城幸田線等の都市計画道路整備が着実に進捗していることにより、本地域における商業・業務機能等の都市機能活用に係る快適性及び利便性が向上し、道路整備満足度が上昇したと考える。 ・地域拠点である桜井地域において、（都）安城蒲郡線等の都市計画道路整備が着実に進捗していることにより、本地域における商業・業務機能等の都市機能活用に係る快適性及び利便性が向上し、道路整備満足度が上昇したと考える。	
	最終実績値（見込値）	58.1%			
	指標②（災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリア）	最終目標値	83.5%		目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値（見込値）	83.8%		

交付対象事業の目標達成へ効果発現状況について、上記目標を補足・補完する指標で整理する。

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）

1. 都市機能が集積したエリアなどにおける道路整備(指標①)

補足・補完する指標	地区名等	当初現況値	最終実績値	関連事業
「道路整備に対する満足度」の地区比較	桜井中学校区	(H21) 0.00 点	(H24) 0.26 点	25-A1-1
	南中学校区	(H21) 0.00 点	(H24) 0.15 点	25-A1-2,3
みちづくりへの市民の関心度	南明治第一地区まちづくり協議会	- 人	(H25) 76 人	25-A1-2
	南明治第二地区まちづくり実行委員会	- 人	(H25) 11 人	25-A1-3

2. 災害に強く、地域住民が安全で安心して生活でき、賑わいと活力ある都市空間の創出(指標②)

補足・補完する指標	地区名等	当初現況値	最終実績値	関連事業
地区内狭あい道路延長	安城桜井駅周辺地区	(H22) 1,391 m	(H26) 1,083 m	25-A1-1
	南明治第一地区	(H22) 945 m	(H26) 624 m	25-A1-2
地区内の排水路整備率	安城桜井駅周辺地区	(H22) 0.0 %	(H26) 70.3 %	25-A1-1
	南明治第一地区	(H22) 0.0 %	(H26) 19.7 %	25-A1-2
	南明治第二地区	(H22) 21.2 %	(H26) 98.7 %	25-A1-3
区域内居住人口	安城桜井駅周辺地区	(H22) 5,629 人	(H26) 6,263 人	25-A1-1

3. 特記事項（今後の方針等）

【目標達成状況】定量的指標①及び②が達成見込みとなり、目標である「鉄道駅周辺等の都市機能が集積したエリアなどにおける道路整備」、「災害に強く、地域住民が安全で安心して生活でき、賑わいと活力ある都市空間の創出」を達成し、活力ある都市拠点の形成を牽引する快適・便利のみちづくりが計画通り推進できたと考える。

【今後の課題】計画策定時の課題だった、高齢化の進展に伴う安全・快適な交通環境へのニーズの高まり、地球温暖化や自然災害への対応などについては、事業進捗分解消されたと考える。しかし、今後のさらなる「人口増加」、重点密集市街地などのまちなかの老朽化に対応するための「まちなか更新」など策定時の課題は継続しており、都市・地域拠点における都市基盤整備、都市機能の集約を図る「都市構造」分野において、「地域の活力を創出する基盤形成」に向けた取り組みが継続して求められている。

【今後の方針】「都市の機能の集約を図るための基盤整備や都市機能の配置の適正化」を目的とする都市計画道路整備の継続実施により「歩いて暮らせるまちづくり」を実践し、都市・地域拠点において「災害に強く、安心して快適なコンパクトシティ型都市基盤の整備・再編」を推進するとともに、都市機能の集約・再配置による「コンパクトで賑わいのある都市・地域拠点の形成」推進とあわせ、本市の中心にふさわしい賑わいあふれる都市・地域拠点を形成していく。

【その他特記事項】南明治第一地区で実施されたまちづくりコーディネート活動支援事業で平成24年度には97人が参加し15回の会合、平成25年度には76人が参加し18回の会合が持たれた。また南明治第二地区で実施されたまちづくりコーディネート活動支援事業では、平成24年度には12人が参加し4回の会合、平成25年度には11人が参加し4回の会合が持たれた。こうした取り組みにより、事業の目的や効果を把握していただける市民が増えたことも道路整備満足度上昇の要因の一つと考えられるため、今後も都市基盤整備の推進に向け、整備状況や整備方針を市民と共有しながら、持続的な住民参加を促進していく。

